

# 独占入手! 小向美奈子「無修正エロ動画」

が流出した

『笑点』の仰天人事「新司会者昇太」&「新出演者」  
決定の裏に何があったか

本誌「大誤報」を徹底検証  
歌丸師匠に叱られちゃいました

中島史恵



衝撃レポート! 緩和ケアの第一人者が緊急提言  
がん患者の8割は



# 週刊ポス

袋とじスペシャル

名監督がズラリ!  
昭和のピンク映画はエロかった!

中高年必読!

2016 Jun. 6.10 特別定価430円

## あの野村證券が「それでも年末日経平均2万円」と強気のワケ

「貴乃花部屋」が中野新橋から退去する事情  
健康診断「人間ドック」のデータを入力するだけ  
今すぐみようと10年以内に脳卒中・心筋梗塞になる確率がわかる

投資家向けレポート  
「マーケットアウトブック」に大注目!

波平が死んだ!?  
カツオが悩む磯野家の「相続」遺品整理



次にTV画面から消える新・都知事候補、最有力小池百合子代議士を直撃!  
「天物司会者は誰だ?!」  
ポスト論壇 日米地位協定3条1項とは何か?

菅官房長官も公明党も民進党もみんな反対、「それでもやる!」  
安倍VS安倍以外全部「衆参ダブル選」最後の攻防

栄養失調で死んでいる  
全内幕

死ぬまでSEX 超高級エロ・サービス「禁断の園」  
お金を出せばここまでできる  
あなたか知らない  
経済誌が報じた「謝礼交際」で月40万円稼ぐ人妻 / 1泊4万円「最高級ラブホテル」はどこが違う?  
1回10万円超え「超高級フーズ」のサービスって? / 1脚60万円で高齢者を楽にする「スヶベ椅子」  
プロ野球セ・パ交流戦 やっぱパの72勝36敗!

「日本人の3人に1人ががんで死ぬ」は間違いだった

# がん患者の8割は

# 「栄養失調」で 死んでいる



緩和ケアの  
第一人者が  
緊急提言



東口高志医師

〈論争勃発／がん治療先進国の不都合な真実〉

がん患者の生死を分けるのは、手術や抗がん剤といった「治療」の成否にかかっていると思われてきた。しかし、「患者の死は治療以外の要因にある」と、長年がん患者を診てきたこの医師は断言する。がん医療の真実に向き合わない日本の医学界に向けて、緊急提言を行なった。

## 「病室の骸骨」にならざる

「がん」は日本人の死亡原因第1位で、3人に1人がこの病気で亡くなるといわれている。そんななか、「がん患者はがんで死ぬわけではない」という驚きの発言が話題を呼んでいる。

発言の主は、緩和ケアの第一人者、東口高志氏（藤田保健衛生大学医学部教授）だ。東口氏は、がん患者のために医療改革の必要性を訴え続けているという。

「がん患者はがんによって亡くなると思われがちですが、実はがん患者の死因の8割になんらかの感染症が関連している可能性がります。そうした感染症はがんによって引き起こされたもので

いる。東口氏は、2003年に余命1か月程度と思われる患者108人を調査した。その結果、がんとは関係なく栄養不足に陥っている人が82・4%もいることが判明した。そして、その大半は感染症などで亡くなったという。

同様の問題が米国の調査でも指摘されている。09年に米国で出版されたがん患者に関する医学論文集『Medical Care of Cancer Patients（がん患者の医学的ケア）』で、ヘンリー・フォード病院のヤキール・ムシカト医師は、こう述べている。

「がん患者の20%以上は、悪性腫瘍というよりも栄養失調の影響をより強く受けている。同様の問題が米国の調査でも指摘されている。09年に米国で出版されたがん患者に関する医学論文集『Medical Care of Cancer Patients（がん患者の医学的ケア）』で、ヘンリー・フォード病院のヤキール・ムシカト医師は、こう述べている。

「がん患者の20%以上は、悪性腫瘍というよりも栄養失調の影響をより強く受けている。同様の問題が米国の調査でも指摘されている。09年に米国で出版されたがん患者に関する医学論文集『Medical Care of Cancer Patients（がん患者の医学的ケア）』で、ヘンリー・フォード病院のヤキール・ムシカト医師は、こう述べている。

「がん患者の20%以上は、悪性腫瘍というよりも栄養失調の影響をより強く受けている。同様の問題が米国の調査でも指摘されている。09年に米国で出版されたがん患者に関する医学論文集『Medical Care of Cancer Patients（がん患者の医学的ケア）』で、ヘンリー・フォード病院のヤキール・ムシカト医師は、こう述べている。

「がんを治療する」とは「健康な体になる」ことは医学界においては全く別の意味。

「栄養学を知らないがんの名医」によって、患者はがん克服と引き替えに命を縮めていた。

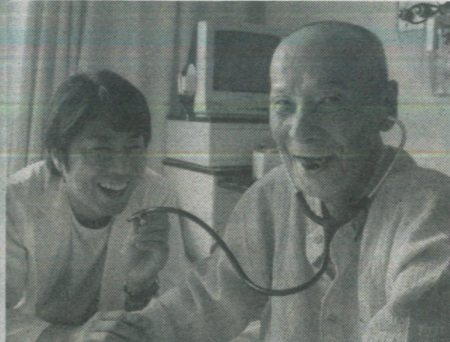


トランプ現象はなぜ起こったのか? 池上彰の世界の見方 アメリカ ナンバーワンから退場か 小学館

ごしてはならない」入院中の患者が栄養不足になっていると初めて指摘したのは、74年に米国で発表された「病室の骸骨」という論文だ。それまで栄養

# 栄養管理は「医療」ではない?

問題は「患者さんだけでなく、栄養管理のことを知らない医師が多過ぎることです」と東口氏は指摘する。がん治療に携わる多くの医師はいまだに、「がん細胞は栄養を与えると大きくなる」と考えている。それは、がん細胞が体内の栄養を取りこんでしまうからだ。しかし、これは間違いだと



栄養管理で元気になる患者は少ない(写真左は東口医師)

不足は主に食糧問題が深刻な発展途上国や、戦争などに伴って起こると考えられていた。そのため、先進国の病院で、栄養不足が高率で起こっているという内容

は医学界に衝撃を与えたという。病院こそ、栄養管理が整っていると思うのが普通だが、なぜこんな状況が起きってしまうのか。

う問いに対し、「大学の講義で習った」と答えたのは、わずか18・3%にとどまっている。

東口氏の問題提起を、がん治療の現場はどう受け止めているのだろうか。

「現場の医師が患者さんのがんを取るものが何より大事だと考えるのは当然ですが、栄養不足で免疫力が低下したまま治療を行えば、その治療の効果は無効になってしまふといつても過言ではありません。それどころか、栄養管理を軽視すれば、がんそのもので亡くなる前に患者さんを死に追いやってしまう危険性がある。私はこの事実を多くの現場の医師に知ってほしいのです」

「がん細胞は、栄養を入れようが入れまいが、勝手に大きくなります。そのことを病院の医師さえ知らないのは、日本の医学界が栄養管理をきちんと教育してこなかったのが原因です。その誤解のせいで患者さんの知識も歪曲され、適切な補給ができずに栄養不足に陥ってしまい、感染症などでお亡くなりになる。哀しい連鎖です」

ある大病院の消化器外科の現役医師によると、卒業後の研修では、各診療科が扱う病気の専門知識や治療の手法の習得が何より優先され、「栄養学を勉強する暇なんてなかったし、学ぼうとも思わなかった。正直、栄養管理は医療とは思っていない医師ばかりです」という。

だが、東口氏は繰り返しこう強調する。「現場の医師が患者さんのがんを取るものが何より大事だと考えるのは当然ですが、栄養不足で免疫力が低下したまま治療を行えば、その治療の効果は無効になってしまふといつても過言ではありません。それどころか、栄養管理を軽視すれば、がんそのもので亡くなる前に患者さんを死に追いやってしまう危険性がある。私はこの事実を多くの現場の医師に知ってほしいのです」

日本の医学界で栄養学が軽視され、正しい知識が教えられていないと指摘する医師は東口氏だけではない。1万人の患者を診てきたがん治療の専門家、健康増進クリニック院長の水上治氏も証言する。

「私も医学部ではほとんど

「がん治療に携わる医師は、当然なかして手術や抗がん剤、放射線療法などの標準治療でがんを治したいと考えている。そのため、栄養管理は後回しにしてしまっている医師も多い。」

「私が診た患者さんのなかには体調の回復によって、がん治療を再開できた人もいます。寿命を延ばすことに寄与した栄養管理を『治療ではない』といえるでしょうか」

「がんの場合、手術や抗がん剤治療ができる人であれば、それが一番良い治療法です。手術の場合、その前後の栄養管理が回復のカギを握る。とくに手術は体力を消耗するのでしっかりと栄養を補充してあげねばなりません。基本的には、炭水化物、タンパク質、脂質の三大栄養素に加え、ビタミンやミネラルをバランスよく

「がんが大きくなるからといって、患者さんに栄養摂取を控えるように指導する医師もいる」

「ある意味、がんで死ぬのは寿命です。それを全うできず、途中でがん以外の原因で亡くなることがあったりはなりません。適切な栄養管理を行えば、長生きする人は沢山います。だから私の望みは、がん患者さんが『がんそのもの』で亡くなることなのです。栄養状態が良ければ、たとえ末期のがん患者さんでも最後の最後まで生き生きと過ごせるものです」

「がんが大きいからといって、患者さんに栄養摂取を控えるように指導する医師もいる」

「がんが大きいからといって、患者さんに栄養摂取を控えるように指導する医師もいる」

「がんが大きいからといって、患者さんに栄養摂取を控えるように指導する医師もいる」

「がんが大きいからといって、患者さんに栄養摂取を控えるように指導する医師もいる」

# 「余命1か月」から5年生きた

では、具体的にどうすればいいのか。

東口氏はこう述べる。「がんの場合、手術や抗がん剤治療ができる人であれば、それが一番良い治療法です。手術の場合、その前後の栄養管理が回復のカギを握る。とくに手術は体力を消耗するのでしっかりと栄養を補充してあげねばなりません。基本的には、炭水化物、タンパク質、脂質の三大栄養素に加え、ビタミンやミネラルをバランスよく

「がんが大きいからといって、患者さんに栄養摂取を控えるように指導する医師もいる」

「がんが大きいからといって、患者さんに栄養摂取を控えるように指導する医師もいる」

「がんが大きいからといって、患者さんに栄養摂取を控えるように指導する医師もいる」

「がんが大きいからといって、患者さんに栄養摂取を控えるように指導する医師もいる」

「がんが大きいからといって、患者さんに栄養摂取を控えるように指導する医師もいる」

「がんが大きいからといって、患者さんに栄養摂取を控えるように指導する医師もいる」

「がんが大きいからといって、患者さんに栄養摂取を控えるように指導する医師もいる」

「がんが大きいからといって、患者さんに栄養摂取を控えるように指導する医師もいる」

「がんが大きいからといって、患者さんに栄養摂取を控えるように指導する医師もいる」

「がんが大きいからといって、患者さんに栄養摂取を控えるように指導する医師もいる」

「がんが大きいからといって、患者さんに栄養摂取を控えるように指導する医師もいる」

「がんが大きいからといって、患者さんに栄養摂取を控えるように指導する医師もいる」

「がんが大きいからといって、患者さんに栄養摂取を控えるように指導する医師もいる」

「がんが大きいからといって、患者さんに栄養摂取を控えるように指導する医師もいる」

「がんが大きいからといって、患者さんに栄養摂取を控えるように指導する医師もいる」

「がんが大きいからといって、患者さんに栄養摂取を控えるように指導する医師もいる」

「がんが大きいからといって、患者さんに栄養摂取を控えるように指導する医師もいる」

「がんが大きいからといって、患者さんに栄養摂取を控えるように指導する医師もいる」

「がんが大きいからといって、患者さんに栄養摂取を控えるように指導する医師もいる」

「がんが大きいからといって、患者さんに栄養摂取を控えるように指導する医師もいる」

「がんが大きいからといって、患者さんに栄養摂取を控えるように指導する医師もいる」

「がんが大きいからといって、患者さんに栄養摂取を控えるように指導する医師もいる」

「がんが大きいからといって、患者さんに栄養摂取を控えるように指導する医師もいる」

「がんが大きいからといって、患者さんに栄養摂取を控えるように指導する医師もいる」

『週刊ポスト』次号(6月17日号)は6月6日(月)発売です